

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県上山市

自治体名：山形県上山市

担当課名：教育委員会生涯学習課

電話番号：023-672-1111

1.自治体の基本情報

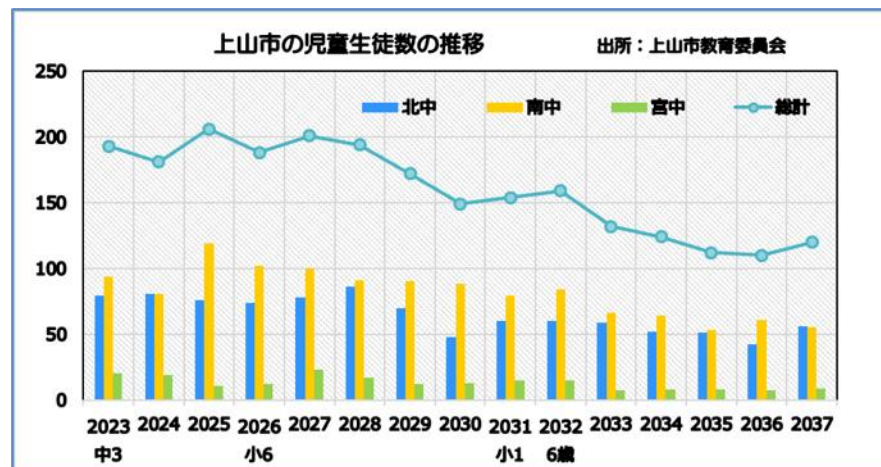
基本情報

面積	240.93km ²
人口	26,907人 (令和8年1月31日)
公立中学校数	4校
公立中学校生徒数	574人
部活動数 (運動部活動のみ)	23部活
地域クラブ活動数	8クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

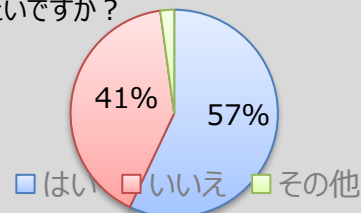
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本市は、少子化による人口減の影響を受け、児童生徒数の減少（グラフ1）が著しく進行している。部活動における、任意加入が2年目となり、運動部への所属は減少し、文化部への所属は維持されている現状である。人口減の影響は、個人競技では少ないが、団体競技での練習や大会参加には大きな影響がある。「休日に活動したい中学生がたくさんいる」「平日と同じ活動をしたいけど受け皿がない」（令和6年調査、グラフ2・3）という現状を打開する必要に迫られている。

グラフ1

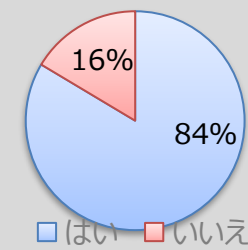


今後休日（土・日曜）の部活動がなくなった場合、休日に活動できる環境（地域クラブ等）があれば、休日もそこで活動したいですか？



グラフ2

休日の活動も平日の部活動と同じものを選びますか？

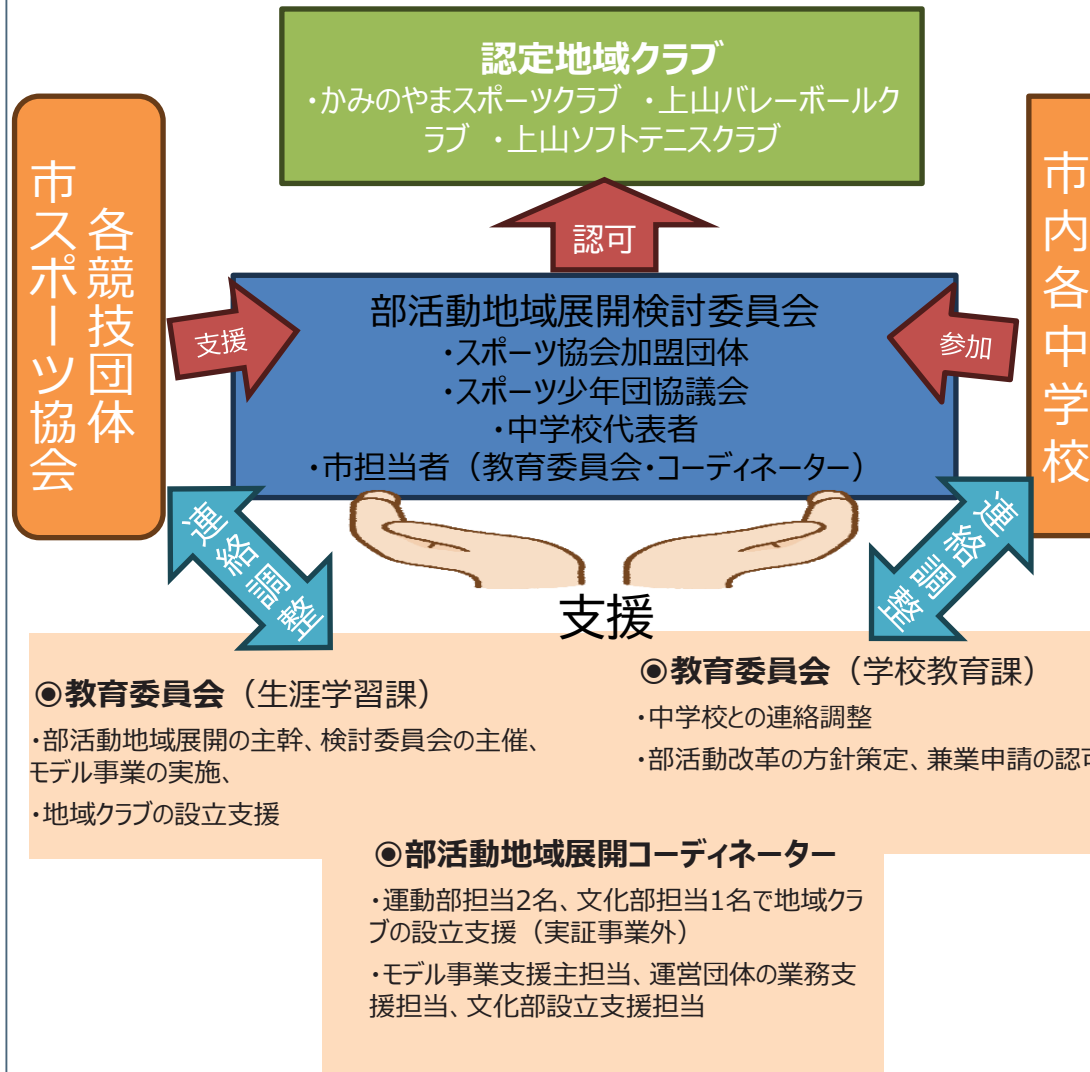


グラフ3

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



年間の事業スケジュール

令和7年4月	モデル事業クラブとの打ち合わせ
令和7年5月	部活動体験活動実施
令和7年6月	第1回部活動地域展開検討会 モデル事業開始
令和7年8月	地域クラブ設立相談会
令和7年9月	〃
令和7年10月	地域クラブ認定、クラブ運営試験開始 コミュニケーションアプリ試験導入
令和7年12月	2モデルクラブ事業終了
令和8年1月	1モデルクラブ事業終了 認定地域クラブ設立説明会 モデルクラブアンケート実施
令和8年2月	モデルクラブ事業完了検査 認定地域クラブ設立申請受付開始
令和8年3月	第2回部活動地域展開検討会

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		3クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	2クラブ（4部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	1クラブ	
全体の指導者数	15人	全体の運営スタッフ数	9人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
上山バレーボールクラブ	地域スポーツ団体	バレーボール	・平日 1回 ・休日 1回	19:00～20:30 13:00～16:00	1年 3名 2年 7名 3年 9名	5月～3月	6人	3人 (内、兼務0人)	1,500円/月額	クラブとしては無し
上山ソフトテニスクラブ	地域スポーツ団体	ソフトテニス	・休日 1回	7:00～9:00または 9:00～11:00	1年 19名 2年 17名 3年 0名	6月～3月	6人	2人 (内、兼務0人)	1,000円/月額	クラブとしては無し
かみのやまスポーツクラブ	特定非営利活動法人	マルチスポーツ・クラブ運営	・休日 不定期	2時間～3時間	中学生	5月～1月	専従3人 臨時15名	4人 (内、兼務3人)	都度徴収など	クラブとしては無し

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 上記上山スポーツクラブが運営主体となって、右記のような活動を実施した。（中学生向け部活動体験会・ゴルフ体験教室・フィジカルトレーニング研修会）
- 上記上山スポーツクラブが他地域クラブの統括を業務とするために、右記に試験的に取組んだ。（部活動をサポートする業務・事務代行の仕組みづくり）

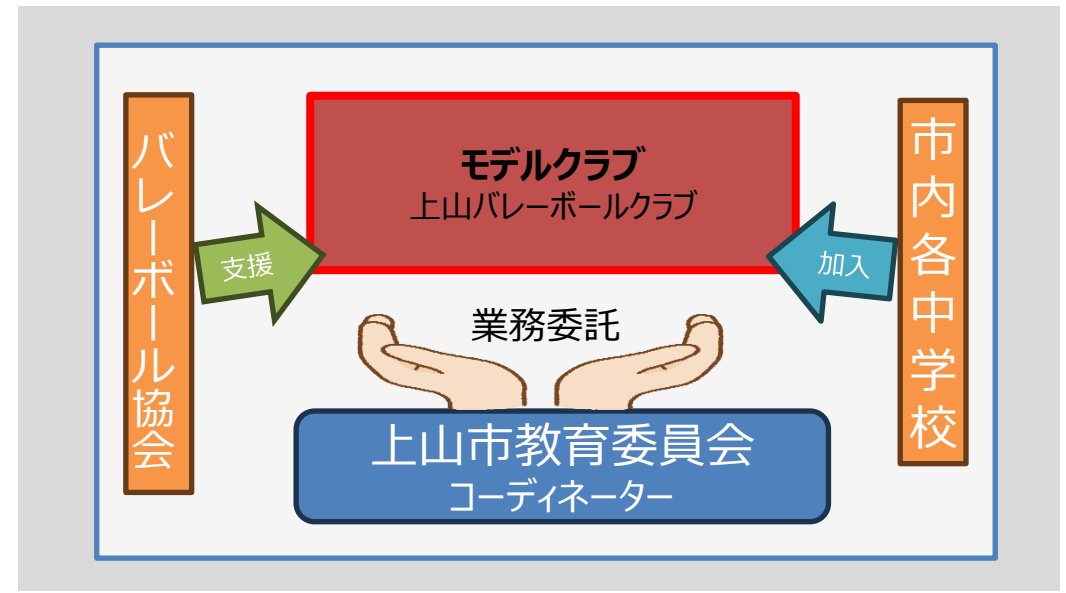
2.実証内容と成果

主な取組例

● 上山バレーボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営団体名	上山バレーボールクラブ
期間と日数	平日1回/週 休日1回/週
指導者の主な属性	上山バレーボール協会所属
活動場所	上山明新館高校・南部体育館
主な移動手段	保護者の送迎・自転車
1人あたりの参加会費等（月額）	1,500円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

● 地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● 自治体

役割：コーディネーターを中心にクラブ設立の支援・事業の証憑準備の支援を行う

● 運営事務責任者

役割：地域クラブ設立事務、会務、会計処理を行う

● 指導者 6名

役割：中学生の指導、参加する小学生の世話を行う

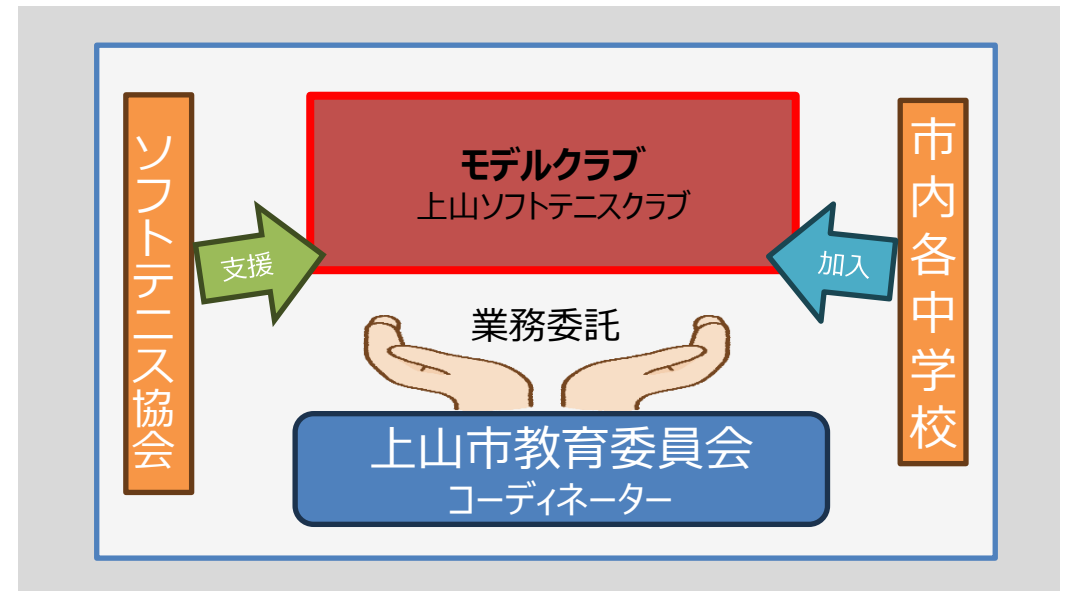
2.実証内容と成果

主な取組例

●上山ソフトテニスクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営団体名	上山ソフトテニスクラブ
期間と日数	休日1回/週
指導者の主な属性	上山ソフトテニス協会所属
活動場所	体文センターテニスコート
主な移動手段	保護者の送迎・自転車
1人あたりの参加会費等(月額)	1,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 自治体
役割：コーディネーターを中心にクラブ設立の支援・事業の証憑準備の支援を行う
- 運営事務責任者
役割：地域クラブ設立事務、会務、会計処理を行う
- 指導者 6名
役割：中学生の指導

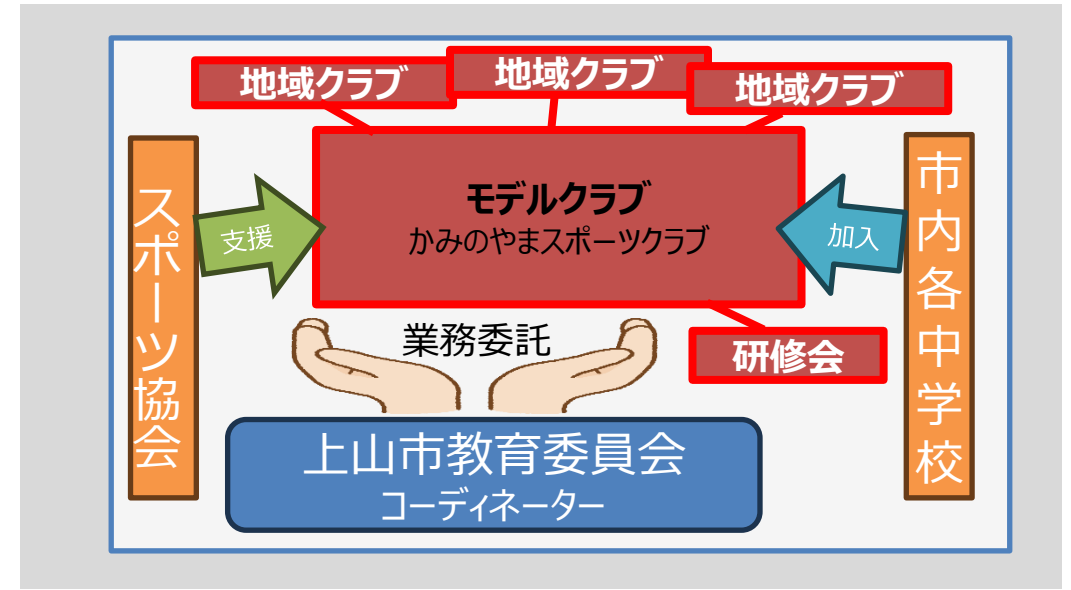
2.実証内容と成果

主な取組例

●かみのやまスポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	マルチスポーツ・クラブ運営
運営団体名	かみのやまスポーツクラブ
期間と日数	適時・不定期開催
指導者の主な属性	特定非営利活動法人
活動場所	基本は体文センター
主な移動手段	保護者の送迎・自転車
1人あたりの参加会費等 (月額)	都度徴収
1人あたりの保険料	イベント保険一人20円(日額)

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 自治体
役割：コーディネーターを中心に他クラブの支援をしたり、事務軽減を図る仕組みづくりの助言・事業の証憑準備の支援を行う。
- 事務責任者
役割：他地域クラブの事務を請け負うシステムづくり、クラブの会務、会計処理を行う
- 指導者 6名
役割：中学生の指導と中学生が運動に親しむ土壌づくりと地域の指導者の資質向上につながる研修会の開催を企画する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

ア 現状の課題、方策等を主体的に推進する体制を整備するため、上山市は今後も引き続きコーディネーターを中心として調整を行っていく。検討会、分科会なども継続して開催する。

イ 生徒や保護者への説明も、PTA総会などの学校行事の際に行い、理解してもらえるように努める。

ウ スポーツ団体が受け皿となるための障害を解決していくため、上山市はこれまでとは別種目の2団体でモデル事業の実証事業を実施し、実情を正確に把握するとともに、アンケート調査なども行い、方策等を検討する。

エ スポーツ団体が受け皿として運営しやすくなるように、上山市では総合型地域スポーツクラブを中心として、その傘下に各クラブを登録する形態の地域クラブ組織を整える。

入会、会場予約、指導者の手配、会費徴収などの共通する事務手続きを総合型地域スポーツクラブが一手に担うため、各団体は生徒達の指導に集中できるようにしていく。

令和7年度は市のコーディネーターと総合型地域スポーツクラブで協力して地域クラブ組織への登録に必要な条件の検討、10月～1月は試験期間として2種目以上の地域クラブを仮登録し、実際に運営業務の一部（練習日程調整・連絡（連絡アプリの運用）、会費徴収、指導謝金支払い、保険加入など）を行い、クラブ組織化の課題抽出を行う。

取組の成果

ア スポーツ担当の部活動地域展開総括コーディネーターを配置し、地域の団体との連絡調整にあたった。相談会2回、検討委員会2回、説明会2回開催できた。

イ 新入学生オリエンテーションの機会に、広報ちらしを配付できた。

ウ バレーボール種目のクラブとソフトテニス種目のクラブの2クラブをモデル実証事業として指定し、実証的に実施できた。

エ かみのやまスポーツクラブを運営団体に指定し、運営団体の仕組みづくりと、マルチスポーツのスポーツ教室実施、指導者の資質向上につながる研修会を実施できた。コミュニケーションツールの導入を準備した。

今後の取組における課題

イ 中学校、誰がどんな立場で直接説明するのは、決められずに過ぎた。

エ 運営団体の職務内容と職務の範囲は未確定であり、戸惑うことがあった。コミュニケーションアプリが、使いづらいの声があった。

課題への対応方針

イ 地域展開の広報活動の在り方を見直す。

エ 今年度の運営団体の職務の実態を検証し、市と運営団体の役割を見直す。コミュニケーションアプリの機種を見直す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ア 地域クラブ設立・モデル事業担当総括コーディネーター
 - ・行政、学校、関係団体との情報共有と連絡調整
 - ・モデル事業の推進、運営と会計への助言、証憑の集約
 - ・地域クラブの承認システムの構築、認定地域クラブ設置要綱案の策定
 - ・相談会、説明会、検討会などの企画
- イ 運営団体担当総括コーディネーター
 - ・運営団体の職務のサポート、職務内容の検討
 - ・コミュニケーションアプリ導入の検討
 - ・学校、社会体育施設、地域クラブのスケジュール管理
 - ・運営団体と地域クラブの円滑な橋渡し

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- ・地域クラブを統括する運営団体を立ち上げ、10月より試験的運用をおこなった。
- ・運営団体は、地域クラブの事務手続きを代行し、月謝の集金、指導者への謝金給付と源泉徴収、施設の代理予約、市からの補助金の代理受領、コミュニケーションアプリの運用、HPの作成など、効率的で効果的な事務を実施できた。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- ・地域クラブ設立申請時に、ガバナンス関係のチェックリスト提出を必須とし、一定の基準を満たした団体を認めている。
- ・モデルクラブの会計では、適時面談を行い、中間検査と完了検査を通して、適正な予算執行を助言した。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- ・クラブでの事件事故は、実施主体の責任となることを確認した。
- ・緊急連絡先を記入した調書を提出させている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

ア 謝金の設定 生徒たちがより良い指導を受けられるように、指導者への謝金を設定する。モデル事業の中で、会費と謝金を含む経費のバランスを検討する。

イ スポーツ協会との連携 指導者が足りない場合、スポーツ協会へ指導者の紹介を依頼する。

ウ 高等学校との連携 高等学校と合同練習会を開催することで、よりレベルの高い練習機会が期待される。

エ 地域クラブ活動に参加した生徒、保護者、指導者へアンケートを実施することで、課題の抽出と、改善を行う。

オ 指導者を対象とした研修会を開催または紹介し、資格取得促進や指導者の質の保障への検討を進める。

取組の成果

ア モデルクラブでは、時間給としての謝金設定と、月ごとの謝金設定を行った。他の地域クラブは、月謝と謝金のバランスをとりながら金額の設定を行った。

イ スポーツ協会所属の競技団体と、相談会や説明会を通して、クラブの設立や指導者の確保について面談を実施できた。

ウ バレーボールにおいて、高等学校のバレーボール部員との交流があった。

エ モデルクラブ所属の中学生・保護者・指導者へのアンケートを実施できた。

オ 運営団体が主催する、外部講師を迎えての、ハラスメント研修会を実施し、指導者の資質向上を図った。

今後の取組における課題

ア 持続可能なクラブ運営のためには、ゼロとしない月謝と謝金のバランスを考えた金額設定が必要であるが、将来の見通しが持てずに金額設定を躊躇する。

イ 休日ひいては平日の指導者確保は、協会や競技団体への依頼だけでは解決できない感が否めない。

ウ 理想は高く持つべきだが、まだ足元を固める時期だと考える。

課題への対応方針

ア 補助金に左右されない、団体の独立採算が望ましいが、謝金ゼロの部活動から、月謝徴収の必要性を理解する地域の意識の醸成。

イ 軌道に乗るまでは、指導者謝金支出の裏付けとなる、自主財源外の公的な財源確保が必要である。

ウ レベルアップは二の次にして、持続可能な受け皿づくりに焦点化する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

ア 運営団体が主催した研修会の実施

- ①フィジカルトレーニング研修会（上山バスケットボールクラブ対象）
- ②ハラスメント研修会（地域クラブ指導者など対象）
- ③指導者実技講習会（地域クラブ指導者など対象）

指導者研修の内容

研修名	①種目別フィジカルトレーニング教室
講師	山形県トレーナー協会 穂積隆史 氏
研修内容	対象：上山バスケットボールクラブ所属の指導者・中学生 内容： ・筋力強化の基礎 ・バスケットに適したトレーニング ・器具を使ったトレーニング 等
研修名	②発達段階におけるスポーツ指導とハラスメントのない環境づくり
講師	山形県スポーツ指導者協議会 堀江昭弘 氏
研修内容	対象：上山市内の地域クラブの指導者など 内容： ・発育・発達の特性と発達段階の差異 ・トレーニングの原理・原則 ・体罰にあてはまる具体例と実態 ・指導力の向上に向けて

研修名	③中学生世代が起こしやすいケガとその予防
講師	アスレチックトレーナー 富樫弘人 氏
研修内容	対象：上山市内の地域クラブの指導者など 内容： ・障害と外傷の違い ・スポーツ障害の事例研究 ・ストレッチとエクササイズの改善事例 ・テーピング実技

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①

「中学生に必要な筋力強化について、わかりやすくご指導いただきました。特に、バスケットボールに特化したトレーニングは継続的に行うことでプレーの幅を広めることにつながることを聞き、子どもたちも期待しながら今も取組んでいます。」

参加者②

「発達の特性が再確認できました。小学生から中学生へかけての年代に、様々な能力が急激に伸びることがわかり、大切な時期だと感じました。言葉も暴力も、体罰は厳禁だと思います。」

参加者③

「中学生が起こしやすい障害について、詳しく教えていただきました。Miss Useという言葉では、根本的な改善が必要な間違った認識への注意喚起があり、今後役に立てていきます。」

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

ア 総合型地域スポーツクラブとの連携 スポーツ団体が受け皿として運営しやすくなるように、上山市では総合型地域スポーツクラブを運営団体として、その傘下に各クラブを登録する形態を整える。

入会、会場予約、会費徴収などの共通する事務手続きを総合型地域スポーツクラブが一手に担い、各団体は生徒達の指導に注力できるようにしていく。

令和7年度は市のコーディネーターと総合型地域スポーツクラブで協力してクラブ登録に必要な条件の検討、10月～1月は試験期間として2種目以上の地域クラブを仮登録し、実際に運営業務の一部（練習日程調整・連絡（連絡アプリの運用）、会費徴収、指導謝金支払い、保険加入など）を総合型地域スポーツクラブが行い、クラブ組織化の課題解決を行う。

イ スポーツ協会との連携 指導者が足りない場合など、スポーツ協会に協力してもらい、指導者を確保する。

ウ 高等学校との連携 上山市内に位置する県立明新館高等学校と連携して、合同練習会の開催、設備の借用などを行う。

取組の成果

ア 特定非営利活動法人かみのやまスポーツクラブに、市で唯一の運営団体として業務委託を行い、運営業務を代行する仕組みを実証的に検証した。

イ 本市の状況から、スポーツ協会への指導者紹介の願いは、ほぼ行っていない。

ウ 前年度までに設備の借用申請が必要で、具体的にはバレーボールクラブのみ練習時の交流と体育館借用があった。

今後の取組における課題

イ スポーツ協会と競技団体との十分な連携が必要なことは論を待たないが、実働的な土日そして平日の指導や運営に携われる人材確保の依頼は非常に難しい。

協会と競技団体の人的余裕がないこと、中学校部活動に替わり定期的にかつ持続的に指導にあたる職責のハードルは極めて高い。

課題への対応方針

イ 中学校部活動に替わり定期的にかつ持続的に指導にあたる指導者の確保の裏付けとなる謝金の確保を、クラブの独立採算制に頼るのは時期尚早であり、国・県・市の余裕を持った支援があつてこそである。

スポーツ協会と競技団体との連携を深めながら、予算の裏付けをもった依頼を模索する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

ア 市が委託した総合型地域スポーツクラブが運営する地域クラブ組織に登録するクラブに対し、市内施設を利用するときの費用の減免などを実施する。

イ 市が委託した総合型地域スポーツクラブが運営する地域クラブ組織に登録するクラブに対し、会員になっている生徒の数に応じて補助金を検討する。

取組の成果

ア 10月より市独自の地域クラブの承認を行い、試験的にかみのやまスポーツクラブを運営団体として統括的なクラブ運営を実施した。承認されたクラブは定められた社会体育施設の使用料減免を実施し、負担軽減を図った。

No.	減免したクラブ	種別	時期
1	上山RC	陸上	10月～
2	上山FC	サッカー	10月～
3	かみのやまバスケットボールクラブ	バスケット	10月～
4	北桜会	剣道	10月～
5	かみのやまスポーツクラブ	マルチスポーツ	10月～
6	上山バレーボールクラブ	バレーボール	1月～
7	上山ソフトテニスクラブ	ソフトテニス	1月～
8	上山BBC	軟式野球	未実施

イ 10月より市独自に地域クラブの承認を行い、試験的にかみのやまスポーツクラブを運営団体として統括的なクラブ運営を実施した。承認されたクラブには、中学生一人当たり個人補助金月額1,000円、クラブへは団体補助金5,000円を支給した。（モデルクラブは除外）
↓2月実績

No.	クラブ名	個人補助(人)	団体補助	補助実績(円)
1	上山RC	16名	○	¥21,000
2	上山FC	15名	○	¥20,000
3	上山バスケットボールクラブ	27名	○	¥32,000
4	北桜会	3名	○	¥8,000

今後の取組における課題

ア・イ クラブにおける一定の参加費用の負担軽減が図れた。所属人数の差により、補助金のみでは支出を賄えない現状が明らかになった。

スポーツ庁が示した認定地域クラブの認定要件は所属中学生が5名以上とされ、個人への補助金の在り方が課題となっている。

課題への対応方針

ア・イ 所属人数・月謝額・指導者謝金額など、多面的な要素を考慮し、補助金支給のシステムを見直していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

ア 市内小中学校の施設を積極的に利用できるように、予約システムの改善を検討する。

イ 山形県立明新館高等学校の施設も利用しやすいように整える。

取組の成果

ア 小中学校の利用状況を下記のように一覧にして市のHPに掲載し、地域クラブが小中学校の施設を積極的に利用できるようにした。

2026年2月 1 ページ目

2026年1月20現在	北中学校	023-672-1502
	南中学校	023-672-1500
	宮川中学校	023-674-3058
空き ○	上山小学校	023-672-1400
空無 ×	南小学校	023-673-3130
	宮川小学校	023-674-2816
	中川小学校	023-679-2234

お電話にて空き情報をご確認ください

2026年2月1日(日)			
学校名	午前	午後	夜間
北中学校体育館(A面)	×	○	×
北中学校体育館(B面)	×	○	×
北中学校グランド	×	×	×
南中学校体育館(A面)	×	×	○
南中学校体育館(B面)	×	×	○
南中学校グランド	×	○	○
宮川中学校体育館(A面)	×	○	○
宮川中学校体育館(B面)	×	○	○
宮川中学校グランド	×	×	×
上山小学校体育館(A面)	×	○	×
上山小学校体育館(B面)	×	○	×
上山小学校グランド	×	×	×
南小学校体育館(A面)	×	×	×
南小学校体育館(B面)	×	×	×
南小学校グランド	×	○	○
宮川小学校体育館(A面)	○	○	○
宮川小学校体育館(B面)	○	○	○
宮川小学校グランド	○	○	×
中川小学校体育館(A面)	×	×	○
中川小学校体育館(B面)	×	×	○
中川小学校グランド	×	×	×

イ 前年度までに設備の借用申請が必要で、具体的にはバレーボールクラブのみ体育館借用があった。

今後の取組における課題

ア データ提出をお願いしている小中学校職員の負担が大きい。

イ 市の所管外の施設であるので、事前予約の手間、使用料の軽減の有無など、利用しやすいように整えることは難しい。

課題への対応方針

ア 地域クラブとの連携のため、HP掲載は継続する。

イ 地域クラブ個別で、明新館高校の借用を実態に応じて考えていただく。本市のみの特別な優先利用は、県の施設ということで難しいと、教頭先生からうかがっている。

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

ア モデル校とモデル施設を選定し、スマートロックの導入、キーボックス等による鍵の受け渡しの実施。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

ア 過去3年間のモデル事業で指定した6クラブを礎にして、市の設立支援の下、10月より地域クラブを市独自で承認できた。

No.	承認した地域クラブ	種別
1	上山RC	陸上
2	上山FC	サッカー
3	北桜会	剣道
4	かみのやまスポーツクラブ	マルチ・運営
5	かみのやまバスケットボールクラブ	バスケットボール
6	上山バレーボールクラブ	バレーボール
7	上山ソフトテニスクラブ	ソフトテニス
8	上山BBC	軟式野球

イ 運営団体として、非営利活動法人かみのやまスポーツクラブを主体とした、「部活動サポートかみのやま（通称ブカサポかみのやま）」を立ち上げることができた。市の支援の下、9月まではモデル事業として運営準備を行い、10月からは市の委託事業として実証的な活動に取組んだ。（↓ブカサポHP）



ウ 1月に認定地域クラブ設立要ガイドラインを策定し、設立説明会を実施し、令和8年度よりの新上山認定地域クラブと認定運営クラブ設立の準備ができた。

No.	認定（設立）予定の地域クラブ	種別
1	上山RC（継続）	陸上
2	上山FC（継続）	サッカー
3	北桜会（継続）	剣道
4	かみのやまバスケットボールクラブ（継続）	バスケットボール
5	上山バレーボールクラブ（継続）	バレーボール
6	上山ソフトテニスクラブ（継続）	ソフトテニス
7	上山BBC（継続）	軟式野球
8	スマッシュクラブ（新規）	卓球

No.	認定予定の運営団体	種別
1	かみのやまスポーツクラブ（継続）	マルチ・運営

エ モデルクラブとして上山バレーボールクラブ、上山ソフトボールクラブ、かみのやまスポーツクラブが実証事業に参加し、部活動地域展開のあるべき姿を標榜しながら実証的に活動できた。

オ スポーツ担当の部活動地域展開コーディネーターを2名配置し、部活地域展開推進が図り、地域クラブの設立、運営団体の骨格を作ることができた。

総括・成果の評価・今後に向けて

●成果の評価

ア・ウ 3年間でモデル事業に指定したモデルクラブ数は3であったが、今年は8つの地域クラブを承認し、さらに次年度へ向け新規の認定クラブ設立の準備が整ったことは、成果である。

イ・ウ 1年間をかけて、運営団体の在り方を検討し、令和8年度よりの認定運営クラブ設置の準備が整ったことは、成果である。

エ 3つのモデルクラブは新規に設立した地域クラブと運営クラブであるが、中学生の受け皿組織として、よりよいものにするため、指導者と運営スタッフにはご苦労いただいたおかげで認定地域クラブ雛形となり、成果があった。

オ コーディネーターは、想定した職務は実施できたが、学校・地域クラブ・運営団体職員との情報共有などに課題が残った。

●今後に向けて

ア 中学校に設置されていない運動部、認定クラブ設立要件5名が確保されない地域クラブ、全く新しいスポーツの種目など、条件や状況の違いがあっても認められ、支援の受けられる地域クラブも視野に入れて条件整備を行う。

イ 認定地域クラブの実施主体とは別に、クラブの運営を担う運営団体である部活動サポートかみのやまの職務内容と、市からの委託内容が未確定なことがあり、事務軽減と効率化の視点で見直していく。

事務の効率化のために、コミュニケーションアプリを試験導入しているが、使い勝手の視点で、導入アプリの見直しを行う。

ウ 認定地域クラブ設立要綱が整い、中学校部活動の土日の受け皿となる認定地域クラブ設立を今年度以上に促進していくとともに、市よりの財政的支援の条件整備も行う。

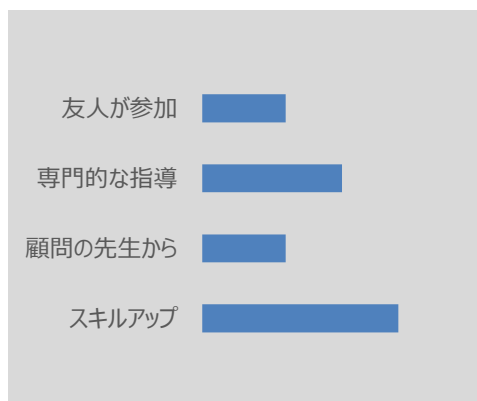
オ コーディネーターと関係団体・関係職員との相互理解が促進できるような、情報共有に努める。

2.実証内容と成果②

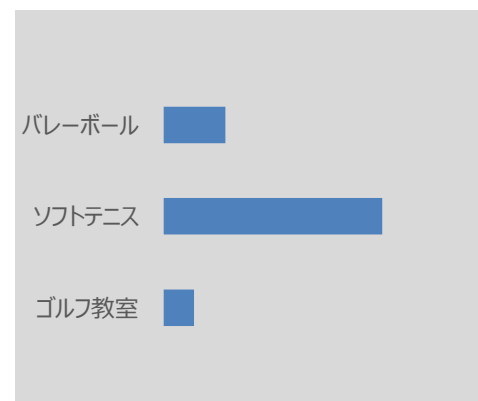
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

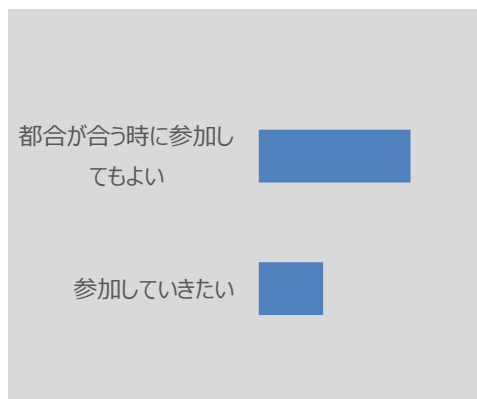
Q.参加したきっかけは何ですか？



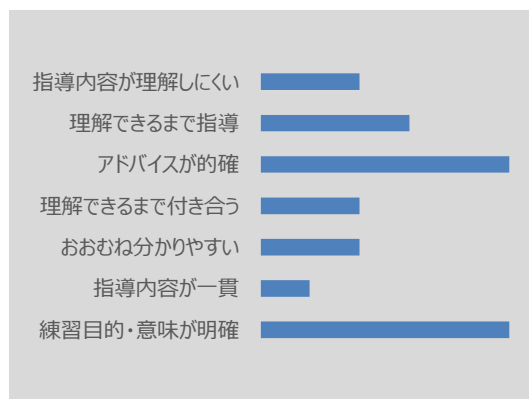
Q.参加した活動は？



Q.週末の活動として開催された場合、今後の活動について教えてください



Q.指導の分かりやすさはどうでしたか？



●参加者の声

参加者①

部活で、クラブで言われたことを実践してみたらうまくいった。

参加者②

細かく指導してくれるので前よりテニスについて深く知れたこと。

参加者③

自分が苦手なところの改善につながった。

参加者④

指導の仕方をもう少し優しくしてほしい。

参加者⑤

分かりやすい練習内容でクラブが楽しい。

参加者⑥

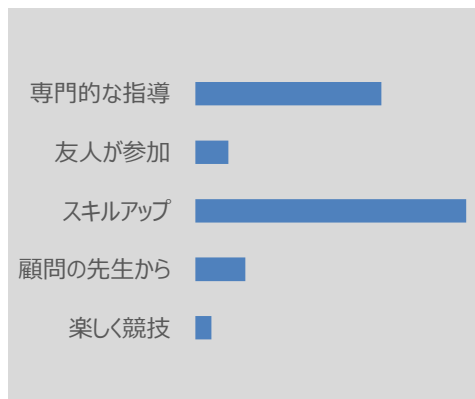
もう少し練習する日にちを増やして欲しいです。

2.実証内容と成果②

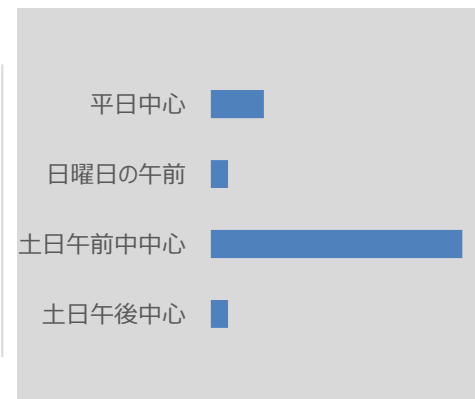
アンケート結果・参加保護者の声

●アンケート結果

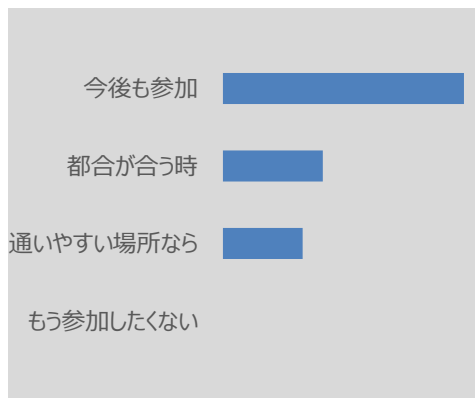
Q.参加したきっかけは何ですか？



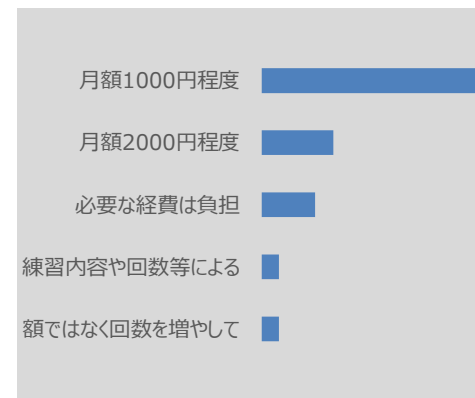
Q.活動開催日程について？



Q.週末の活動として開催された場合、今後の活動について教えてください？



Q.参加費についてのお考えをお聞かせください？



●参加保護者の声

参加保護者①

子供達同士、他校との繋がりができた。コーチとの繋がりが、交流により、良い練習ができていると思います。

参加保護者②

部活が少ない中で、外部の活動では専門の方が指導してくれるので、とても良い刺激になっている。

参加保護者③

初めてのスポーツが体験できて楽しかったようだ。

参加保護者④

部活での物足りなさを感じていたので、練習の機会が増えた事。

参加保護者⑤

練習場所は地区ごとの学校メインにしてほしい、送迎も親ありきでは無く子供の行動範囲内で練習場所を設定してほしい

参加保護者⑥

練習試合や、他の大会への参加なども実施して頂けたら良いなと思います。

アンケート結果・指導者の声

●アンケート結果

Q.今後地域展開を進めるにあたり、改善することがあれば教えてください？

・クラブでは大会出場は行わず中学校チームで出場するが、監督は校長、教員、部活動指導員に限られ、練習試合等の持ち方が不明瞭。

Q.市からどのような支援があると指導がしやすくなると思いますか？

・クラブと学校間のコミュニケーションのみに委ねず、交通整理していただきたい。
・人-指導者、物-コート、金-補助金の手だてがあれば良い。
・教育委員会事務局と体育施設管理団体との情報が共有されていないように感じます。

Q.その他、ご意見・ご要望・ご感想など、ございましたらお聞かせください？

・スマホ等での情報やりとりについて行けません。

2.実証内容と成果④

参考資料



【上山バレーボールクラブ 練習（上山明新館高校）】



【かみのやまスポーツクラブ ゴルフ教室（上山ゴルフガーデン）】



【上山ソフトテニスクラブ 練習（南部体育館）】



【かみのやまスポーツクラブ 部活動体験教室 陸上・剣道（体文センター）】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

検討委員会設置

地域クラブ設置の
基本方針策定

令和7年

検討会開催・相
談会開催・関係
団体との調整

認定（承認）ク
ラブ設立、説明
会開催

令和8年

認定地域クラブ
活動の開始

地域クラブ活動
の拡大

検討委員会

●ステークホルダー

スポーツ協会・中学校・スポーツ少年団・市担
当部局

●経過

5月と3月に開催する部活動地域展開での重
要な機関

●実施にあたって生じた課題

- ・指導者の確保
- ・少人数の部活動への支援の可否

●実施内容

- ・地域クラブの基本方針を検討・承認する
- ・部活動改革の方針や認定地域クラブ設置
要綱なども検討する

相談会

●ステークホルダー

クラブチーム・スポーツ少年団・競技団体
設立を考えている者

●経過

期間を設定した8～9月と随時、スポーツ振
興係、生涯学習係、コーディネーターが被相
談者と地域クラブについての相談を実施

●実施にあたって生じた課題

- ・広報、募集活動への不安
- ・謝金に経費が掛かりすぎへの不安
- ・平日も活動を実施することへの不安
- ・地区中体連への参加方法への疑問

●実施内容

- ・地域クラブ設立に関する相談
- ・設立に関する申請書式の説明

説明会

●ステークホルダー

地域クラブ・設立を考えている者・中学校

●経過

9月に地域クラブ設立と運営団体に関する
説明会実施

1月に認定地域クラブ設立に関する説明会
実施

●実施にあたって生じた課題

- ・平日の部活動と、土日の地域クラブでの活
動とを合わせた時間の把握方法
- ・次年度以降の地区中体連や競技団体主
催の大会参加の動向

●実施内容、工夫した点

・説明会の第2部として、地域クラブ指導者と
該当競技団体と中学校部活動顧問等3者
で情報共有の会を実施。大会参加の見込み、
情報交換の手段などを確認。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

